

2018年度入試直前動向①～人気の系統は？～

河合塾

2017/12/13

いよいよセンター試験まで残り1ヶ月となった。そこで、今号より来春（2018年度）入試の展望を3回に分けてお伝えする。今号では、河合塾が実施した全統マーク模試の結果を踏まえながら、学部系統の人気とその背景について取り上げる。

■「文高理低」 - 経済系の人気目立つ

【図表1】は今秋実施した第3回全統マーク模試における学部系統別志望動向である。国公立・私立ともにグラフの最下部が「全体」の志望者前年比になっており、この数値に赤いラインを引いている。このラインより右が人気の学部系統、左が不人気の学部系統となるが、理系学部よりも文系学部の人気が高くなっていることがわかる。

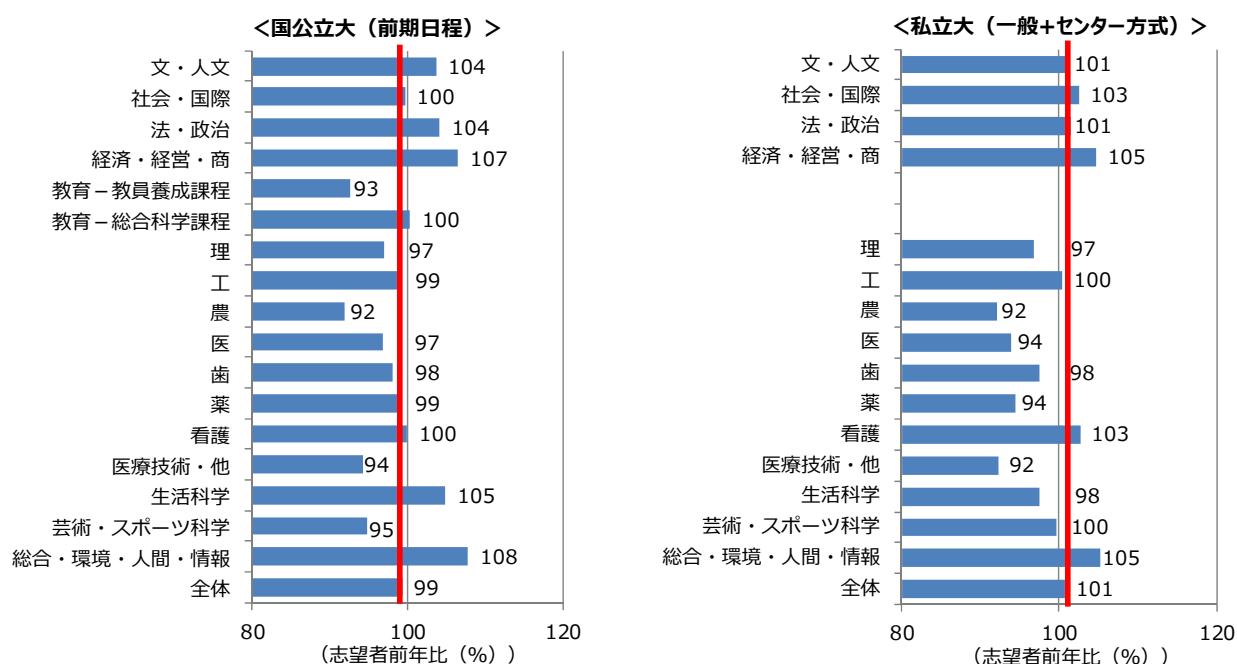
2015年度入試以降、文系学部人気が続いており、2018年度入試も「文高理低」の流れは継続するだろう。文系では、「経済・経営・商」学系が国公立・私立ともに増加率が高く、人気となっている。一方、国公立大の「教育－教員養成課程」では、志望者が大きく減少しており、不人気となっている。

理系学部に目を向けると、「工」学系では国公立・私立とも前年並みとなっているが、「理」・「農」学系で志望者の減少が目立つ。

国公立大では「生活科学」系で志望者が増加している。これは、学部・学科の新設による影響が大きく、系統全体の募集人員も増加するため、過度に警戒する必要はないだろう。

医療系では、国公立大では、「薬」・「看護」は前年並みの志望者が集まっているが、「医」・「医療技術」などでは減少している。とくに、医学科では2017年度入試まで3年連続で志願者の減少が続いているが、2018年度入試も落ち着いた様相となりそうである。私立大医学科では、志望者前年比94%と国公立大以上に減少率が高い。2017年度入試まで2年連続の医学部新設もあり、国公立大とは対照的に志願者は増加を続けていたが、来春は競争が緩和されそうだ。私立大の「看護」では、志望者の増加が目立つ。来春も12大学で学部・学科が新設される影響が強い。既存の大学では、志望者数は前年並みとなっており、志望者の分散が期待できる状況だ。

【図表1】学部系統別の志望動向

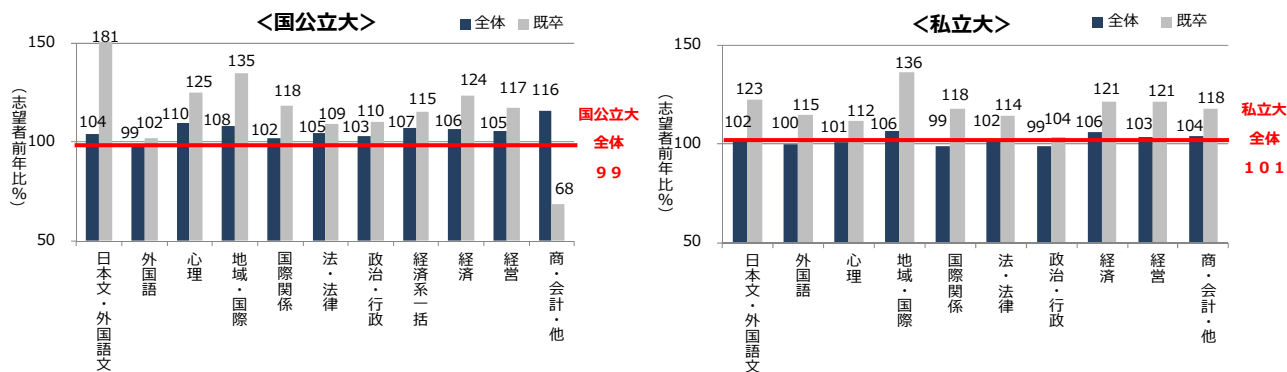


■既卒生の増加率が高い文系

【図表2】は文系学部の主な分野の志望動向である。文高理低のなか、文系では分野別にみても人気となっているところが目につく。2017 年度入試において私立大で合格者の絞込みがあったことから、既卒志望者の増加率が高いことも文系学部の特徴である。

国公立大では、「心理」分野で志望者の増加率が高くなっている。来春2大学で学科を新設する影響であり、既存の学科で大きな動きがあるというわけではない。また、「商・会計」分野でも志望者の増加率が高いが、他の分野と比較すると設置学部・学科数が少なく志望者全体の規模も小さいため、変動が大きくなりやすいためである。国公立・私立ともに、人気となっているのは、「地域・国際」「法・法律」「経済」「経営」分野などである。「法・法律」「経済」「経営」分野は2017 年度入試に引き続き厳しい入試となるだろう。

【図表2】文系学部の志望動向



※第3回全統マーク模試より 国公立大は前期日程で、私立大は一般+センター方式で集計

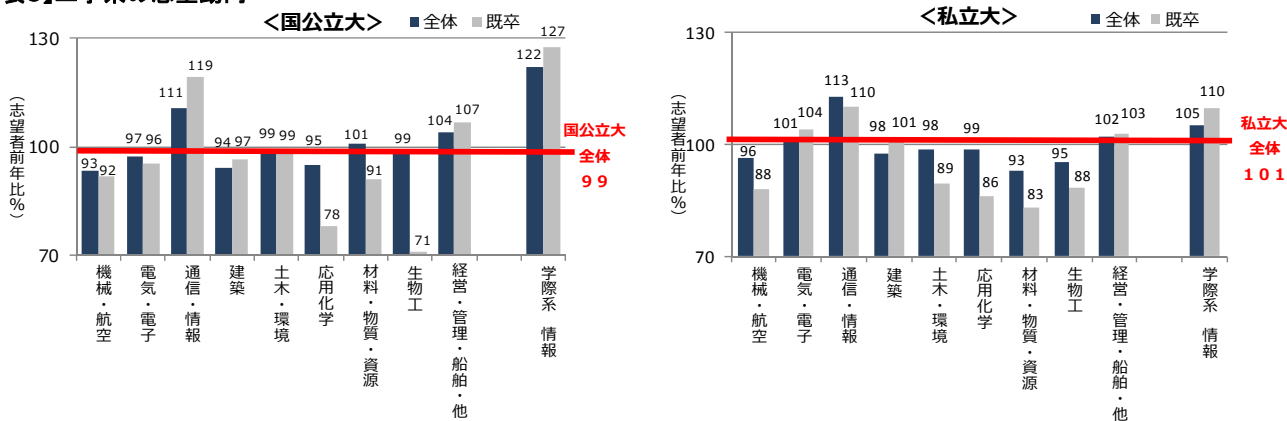
■工学部一分野により人気に差、「情報」が人気

前述のように、理系は国公立・私立ともに低調な人気となっている。文系学部と異なり、既卒志望者の減少率が高くなっている分野が目立つ。一方、「工」学系は、分野ごとに動向が異なる。【図表3】は「工」学系の各分野と学際系の「情報」分野の志望動向である。

「機械・航空」「建築」「応用化学」分野などは、他の理系学部同様不人気である。一方、「通信・情報」分野では国公立・私立ともに志望者が大きく増加している。

また、「情報」は学際系においても志望者が増加している。とくに、国公立大は前年から2割以上の高い増加率となった。広島大(情報科学)、横浜市立大(データサイエンス)といった新設学部の影響で志望者が増加していることに加え、名古屋大(情報)、滋賀大(データサイエンス)などの既存の学部でも志望者増加が目立つ。「情報」系の人気の背景には、IoTやAIなど情報技術の発展に対する期待感があるのだろう。

【図表3】工学系の志望動向



※第3回全統マーク模試より 国公立大は前期日程で、私立大は一般+センター方式で集計

以上、2018 年度入試直前の学部系統の人気について見てきた。「文高理低」の基調はこのまま推移すると思われるが、センター試験の平均点の変動が志望動向に与える影響は無視できない。「法」と「経済・経営・商」、「医」・「歯」・「薬」のような隣接する学部系統、同系統内の難関大と地方大の動向など、現時点とは異なる傾向となる可能性が残る。センター試験後の最新動向は、入試情報サイト Kei-Net などで紹介していきたい。